



### Access Map



- 東京駅から仙台駅まで約100分
- JR仙台駅から片平キャンパスまで徒歩約15分

**東北大学公共政策大学院**  
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1  
東北大学公共政策大学院専門職大学院係  
TEL : 022-217-4945  
URL <http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>  
e-mail [contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp](mailto:contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp)



# 「公共」の 「政策大学院」

 **東北大学公共政策大学院**  
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>

**2010**  
大学院案内



# 「公共」の 「政策大学院」をめざして

東北大学公共政策大学院は、国家・地方・国際公務員などの「政策の企画立案についての専門性を有する人材を教育する大学院」として、2004年に発足しました。

「今、時代は大きく動いています。世界的には、グローバル化・情報化の進展、環境問題等新たな政策課題の重要性の高まりなどがあります。日本においては、経済社会の成熟化、少子高齢化の急速な進行などがあります。これらは、海外や過去に処方箋を求めても見つかるようなものではなく、我々が自ら考えていかなければならない問題ばかりです。こうした状況の中で、『公』に携わる人にも、従来を超える能力・資質・知識等が求められています。」

——これは、その時に私たちが打ち出した設

置の趣旨ですが、基本的な考え方は今も同じです。「公」ないし「公共性」は、これからますます多様化していくでしょう。もはや「公」とは何か、という問いには誰も答えてはくれません。自ら体験し、それを理論的観点から問い直し、他人と意見を交換し、議論を交わす中で、おぼろげながら仄見えるものなのです。

政策の根本に横たわる「公」とは何か自らの頭で考えぬき、「公」を目指して行動する姿勢を持った人材を育てる大学院——それが私たちの大学院です。

そのために私たちは、知識教授型の授業では決して得ることのできないもの、たとえば、フィールド・サーヴェイ、徹底した議論、多面的な観点からの問題の理解、その上での問題の

本質を捉える力、実行可能性の検証、理論による裏打ちといった要素をカリキュラムの中心においています。それが本大学院独自の授業である「公共政策ワークショップ」です。そこでは、教員集団と学生グループとは、互いの顔が見える空間の中で、具体的な「政策」の立案作業に取り組みます。週3コマ、自主活動を含めれば週6コマ以上のインテンシブな討論を、実務家・研究者の専任教員がしっかりと見つめる中で学生が一年を通じて続け、最終的な政策案を練り上げていきます。

学生は、年間を通じた体験修得型の授業を通じて、自ら考え、行動し、ときには失敗を通じて学んでいきます。つまり、「公」の問題を考えることは、「公とは○○だ」と言い放つことでは

なく、「公」を考えぬいたプロセスを周囲の人たちと一つ一つ共有していくことなのです。

本大学院は、「公」という価値をカリキュラムの中にプロセスとして綿密に組み込みました。新入生オリエンテーションから最終報告会までの行事の数々、少人数のスクーリング、「公共政策ワークショップ」は、すべて綿密に計画された集団の作業です。これはつまり、「公」という理念に近づくための仕掛けなのです。大学院の中で、共同で「公」とは何かを考えぬいたときにはじめて、真の意味で社会の公共空間に参画し、これを担う有用な人材が育つ——私たちは堅くこう信じています。

「公共」の「政策大学院」をめざして、私たちはこれからも歩いていきます。

## 東北大学 公共政策大学院の 特長

- 1. 体験型政策教育を中核とするカリキュラム**  
必須科目「公共政策ワークショップ」で集団作業を通じた政策企画立案を体験します。テーマは現在の行政機関が抱える政策課題です。随時政策現場に調査に行き、教員の丁寧な指導と学生の自主討論を通じて政策案を作成する実践を通して、学生は自らのスキルを磨きます。
- 2. 少数精鋭の学生に対するきめ細かな教育**  
1学年30人(2年制)の学生に対して、主要な授業(コア・カリキュラム、公共政策ワークショップ等)だけでも10名以上の教員がインテンシブに担当し、きめ細かな教育を実施します。また、学生一人一人にアドバイザーが付き、履修相談・進路相談を定期的に行っています。
- 3. 高度な理論教育**  
新しい時代にふさわしい公共政策を企画するための基盤となる高度な理論を、気鋭の研究者教員が教育します。政策現場を見つめ直し、対象を客観的に分析する姿勢を学びます。
- 4. 多数の実務家による政策実務の教育**  
6名の実務家教員による公共政策ワークショップと講義のほか、非常勤講師として、中央省庁の事務次官・局長による講演、自治体首長・地域経済界・マスコミ関係者による講演も随時行われます。
- 5. 中央政府・地方自治体・国際機関等における公共政策の企画立案を担う「政策プロフェッショナル」を養成**
- 6. 2年間で修了**  
実務経験を有し、かつ特に優秀な成績を修めた学生に限り、1年間で修了も可能。
- 7. 修了者には「公共法政策修士(専門職)」を授与**



## 東北大学公共政策大学院のカリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位の履修が必要です。

◇履修の流れは、以下の図のようになります。



### 1 必須科目 (1年次・2年次配当、26単位)

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI(12単位)」および「公共政策ワークショップII(12単位)」ならびに「公共政策の展望と方法論(2単位)」です。

#### 公共政策ワークショップ (1年次・2年次配当、各12単位で計24単位必修)

基礎的な科目の履修と並行して、学生は「公共政策ワークショップI・II」を履修し、現実の政策課題を自ら調査し、解決策を立案する実務研修を2年にわたって行います。

1年次では、「公共政策ワークショップI」を通年履修します。ここでは、中央官庁・地方自治体などの各種団体・組織(以下、「プロジェクト機関」と呼ぶ)との協力関係を結び、それらが抱える政策課題への解決策を立案するため、実務家教員・研究者教員の指導の下、6~8名程度の学生がグループ作業で、政策課題の具体化・行政機関へのヒアリング・現場調査・統計データの収集を行いつつ、討論を繰り返して、解決案を作成します。

解決案は、プロジェクト機関の担当者ないしは学外の実務家の前でプレゼンテーションされ、さらには最終報告書として提出されます。最終報告書(そのプレゼンテーションを含む)に基づいてグループ単位の評価を行った上で、個々の学生のワークショップにおける活動状況等により成績が評価されます。

国際機関を対象とするものを除けば、「プロジェクト機関」を仙台市近辺のものとすることによって、学生が臆せず「プロジェクト機関」と接触できるよう配慮するとともに、身近な政策課題を調査対象とすることによって、学部卒の学生が円滑に政策実務に取り組めるよう配慮しています。

2年次では、学生は「公共政策ワークショップII」を通年履修します。これは、それぞれの学生が担当の実務家教員・担当者教員と相談しながら独自の政策課題を選択するものです。

政策課題は、当初から「プロジェクト機関」を特定せず、国ないしは国際レベルの大規模なイシューを学生が自ら調べて、各自が設定します。「公共政策ワークショップI」で調査の基本的な技法を習得した学生は、担当の実務家教員・他の学生と十分な討論を行いながら、中央省庁の本省庁さらには諸外国の国際機関本部などに自ら足を運んで担当者と接触し、現場で自ら調査を行うことによって、調査技法及び実社会での交渉技術の一層の向上に努めます。

調査の成果は、逐次中間報告の形で各セミナーで討論に付され、綿密に議論を重ねていくことによって、学生の相互啓発を促し、その意味でグループ活動としての要素をとりいれます。その成績は、リサーチ・ペーパーと口述試験によって評定されます。

#### 公共政策の展望と方法論 (1年次前期配当(集中)、2単位必修)

入学直後において、学生は「公共政策の展望と方法論」を履修し、公共政策の総論講義を受けた上で、インターネットによる情報収集や、自ら情報を「足で稼ぐ」インタビューなど、政策実務を調査するための基本的な技法を集中的に習得します。さらに、前期終了前の集中講義を通じて調査統計技法の習得を目指します。

ここでは、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも配慮した教育を行い、すべての学生が円滑に履修を行えるよう十分留意しています。

### 2 基幹科目 (1年次・2年次配当、18単位まで選択必修)

学生は1年次より、必須科目とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法律学、政治学、経済学、自然科学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されています。科目によっては、研究者教員、実務家教員との連携・学外の実務家による講演なども交えて行われます。

また、将来行政・政治に関わる公人となることが期待される学生には、公共性についての理解を深め、現象の背後

に存在する理想的・価値的な問題についての洞察力を涵養することが求められます。したがって、学生には、研究者教員の指導の下で、大量の研究文献のリーディング・アサインメント及びチーム・ペーパーが課せられることもあります。

さらに、多様な政策領域についてより深く理解するために、実務家教員ないしは政策専門家による政策体系についての授業も開講されます。これは、政策実務を明晰かつ平明な「体系」として教授するとともに、事例に即して、体系の現実的意味の理解をも目指すものです。政策実務の授業を、単なる平板なスキルの問題としてではなく、「体系的」・理論的深みを備えた問題として理解することが、この授業のねらいです。

### 3 展開科目 (1年次・2年次配当、自由選択)

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。

## 東北大学公共政策大学院科目一覧

大学院1年、2年(M1/M2)において、必須科目、基幹科目、展開科目として次の授業を開設する予定です。

### 1 必須科目

◆公共政策ワークショップ I  
プロジェクトA プロジェクトB  
プロジェクトC プロジェクトD

◆公共政策ワークショップ II

◆公共政策の展望と方法論

### 2 基幹科目

国際社会と各国法秩序／租税制度論／政策税制論／統治機構の動態分析／グローバル・ガバナンス論／経済学理論／財政学／政策分析の基礎と応用／公共法政策通論／地域社会と公共政策論／公共政策特論／現代の行政法制とその横断的検討／地方自治法／環境法／社会福祉法／リスク社会の科学と政策／都市政策論／地方自治政策論／産業政策論／環境政策論／独占禁止政策論／外交政策論

### 3 展開科目

租税法原論／国際関係論演習／実務労働法／社会保障法／経済法／金融法／トランスナショナル情報法／ジェンダーと法演習／比較政治学演習／東アジア政治外交論演習／ヨーロッパ政治史演習

## VOICE

教員  
コラム



教授・東北大学前副学長

大西 仁

1949年東京都生まれ。1972年東京大学法学部卒業。カリフォルニア大学バークレー校Ph.D.コース、東京大学助手、東北大学助教授を経て、東北大学教授。オックスフォード大学客員研究員、日本平和学会会長、バグワッシュ会議評議員、東北大学理事・副学長などを歴任。専攻は国際政治。

#### グローバルな視野と行動力を育てる

グローバル化の進展に伴い、地球環境破壊をはじめ一国の政府では解決不可能な問題が出現しています。さらに福祉や治安維持や経済運営など、従来は主として一国の政府が単独で対処してきた問題でも、今や国際連携なくしては、国民の満足を得る政策を立案・実施することが困難になっています。世界の仲間と協力して人類社会が直面する問題の解決に取り組めるような、視野と行動力を備えた「グローバル化時代の政策プロフェッショナル」を育てるのも、本公共政策大学院の目標です。



教授

稲葉 馨

1952年静岡県生まれ。1975年に東北大学法学部卒業、同学部助手、熊本大学助教授、法政大学教授を経て、2000年4月より東北大学教授。2006年11月より2009年3月まで法学部研究科長。主著は、「行政組織の法理論」・「行政法と市民」。

#### 「法律に強い政策のプロ」を目指して

今年度、はじめて本格的に授業を担当することになりました。公共政策大学院生の中には、「法律」に対して苦手意識を持っている方もいらっしゃると思います。しかし、公共政策は具体的な法律や条例に体现されることが多く、その企画・立案に当たり、法的素養と基本的な法制度の理解が不可欠です。「法律に強い政策のプロ」を目指して、大いに研鑽を積まれるよう期待しています。



教授

澁谷 雅弘

1966年4月4日、北海道滝川市生まれ。1989年3月、東京大学法学部卒業。東京大学助手、講師を経て、1995年2月より東北大学助教授、2005年4月より東北大学教授、2006年4月より2009年3月まで公共政策大学院長。専攻は租税法。

#### 人の意見を聞くということ

政策プロフェッショナルに必要な資質の一つに、人の意見に謙虚に耳を傾けられるという能力があると思います。これは、単に意見を聞きっぱなしとすることでも、それをまるごと受け入れることでもありません。その意見の論拠について深く考えた上で、正当であると考えられるものを受け入れ、そうでないと考えるものには事実や論理に基づいて反論することをいいます。こうしたプロセスを経ることによって、たとえ自分の考えが結論としては変わらなかったとしても、よりしっかりとした基礎を持ったものとなるでしょう。その意味で、自分の考えと反対の意見について深く考えることこそ、自分の考えを鍛えるためには有益であるといえます。



准教授

戸澤 英典

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。エッセン総合大学留學、欧州連合日本政府代表部専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年4月より現職。専攻は国際関係論。

#### 「理念」を実現するタフさ

授業や公務員試験対策もこなしつつ、WSのグループ作業を通じて自らの能力やスキルを貪欲に高めていこうという学生の姿勢には、時に圧倒される思いすらします。フィジカルにも知的にもますますタフさが要求される次代の公共政策のプロフェッショナル養成のため、私自身にとっても学生との真剣勝負でタフな日々が続いています。



ワークショップ風景

「公共政策ワークショップⅠ・Ⅱ」(1年次・2年次配当、各12単位で計24単位必修)とは、現実の政策課題を自ら調査し、解決策を立案することを通じて実務の現場の目線に立って、政策実務能力を修得することを目的とした体験型の授業です。教員の指導の下、集団作業の中で、フィールド・サーヴェイ、徹底した議論、問題の本質を捉える力、政策の実行可能性の検証、理論的裏づけなど、政策を企画立案する上で必要な観点を多角的に体験し、学生が自分の力で考え、失敗を乗り越えて進んでいく力を身につけることがねらいです。

## 1 公共政策ワークショップⅠ

1年次に通年で履修する「公共政策ワークショップⅠ」では、すでに協力関係を結んでいる中央省庁・地方自治体等の各種団体・組織(以下「プロジェクト機関」)が抱える政策課題について、実務家教員・研究者教員の指導の下、行政機関へのヒヤリング・現地調査、統計データの収集等を行いつつ、討論を繰り返して解決策を立案することが標準的な形態となります。

取り上げられるテーマは、その年によって異なりますが、内政、経済、国際、環境などの分野から、現実に政策課題となっているものが取り上げられます。

ここでは、6~8名程度の学生と実務家教員・研究者教員各1名のグループで運営されますが、各参加者が役割と責任を持ちチームとして行動していくことを通じて、政策の企画立案能力だけでなく、実社会でまさに必要とされる集団の中の一員として責任ある行動をとっていく能力を涵養することも目指しています。教員は適宜学生の自主的な活動を尊重し、学生が自分の力で問題に接近するように努めています。少人数だからこそ、学生の個性を把握しつつ、教員の指導と学生の自主作業とを結びつけることが可能なのです。

立案される政策案は、机上の空論にならないよう、グループ内の徹底した討論の中で多様な観点から検討されます。検討がなされた内容について、7月には、教員・学生全員が参加する中間報告会が行われます。中間報告会では、各ワークショップの学生たちが、これまでの検討によって明らかになった問題点とこれを解決するための施策の基本的考え方などが報告され、それに対して厳しい質疑応答が行われることにより、最終報告に向けて考えを深めるきっかけを得ることが可能となります。

中間報告会の後も補足の調査や検討が行われ、完成した提案は、12月の最終報告会で報告されます。特に最終報告会では提案の内容だけでなく、説明及び質疑応答の的確さについても検討及び評価が行われます。これらを通じて、政策に関する文書の作成能力のみならず、質問能力・プレゼンテーション能力・答弁能力も涵養されていきます。

また、最終報告会の後、プロジェクト機関への報告も開催されます。

### ワークショップ・プロジェクト一覧

- 2004年度**
  - 自然災害の被災者に対する居住の確保支援
  - 地域の資源・企業・資金のネットワークを活かした産業基盤の強化:東北経済の自立へ向けて
  - グリーン購入の普及について
  - 仙台市の産業立地の現状と課題
- 2005年度**
  - 広域市町村における新たな食料・農業・農村基本政策の推進方策—「食」と「農」が共生するまちづくりの提案
  - 保健福祉分野における行政計画と政策評価
  - 日本の国際協力における「人間の安全保障」の推進
  - 人口減少下における白石市への政策提案
- 2006年度**
  - 地域における地球温暖化対策(仙台市を事例として)
  - 地域経済活性化のための地域金融機関及び金融行政の課題と将来像
  - 「21世紀東アジアのグランド・デザイン構築における日本の役割」に関する政策提言
  - 地方都市の中心市街地活性化及び地方都市における産業廃棄物の適正処理対策
- 2007年度**
  - 「平成の合併」後の基礎自治体における地域自治組織のあり方の再検討
  - 「地域活性化」の一般法則の研究
  - 「東アジアにおける地域協力:日本の平和と繁栄を実現するための推進の方途」に関する政策提言
  - 地方自治体の独自課税
- 2008年度**
  - 農業を軸とする地域振興策について
  - 地方公共団体の環境マネジメントの今後のあり方について
  - 東アジアにおける諸国民間の相互信頼関係の強化のための政策提言
  - 現代の大都市行政におけるコミュニティ支援政策の再検討
- 2009年度**
  - 過疎地域の集落機能の維持向上策について
  - 納税者による税の使途指定の考察
  - 政策の企画・実施・検証プロセスのガバナンス・システム
  - 地域の手による新たな道路管理のあり方について



山形県鶴岡市でのヒヤリング

## 【現地調査の例①】 …宮城県北部地震被災者へのアンケート

2003年7月に発生した宮城県北部地震によって住宅が全壊した被災者の住宅確保・再建状況について調査。

予備調査として、現地町役場と被災地を見学した後、宮城県、地元町の協力を得て無作為に抽出した280の対象世帯を訪問し、あらかじめ送付した調査票について、直接ヒヤリングを行った。

## 【現地調査の例②】…宮城県加美町へのヒヤリング

2007年7月から2008年1月にかけて、加美町関係者からのべ約200人にわたり直接ヒヤリングを行った。統計等の公開資料とこれらヒヤリングを基に、加美町の課題抽出、要因分析、対策立案を行い、2008年2月に加美町に対して政策提言を行った。この提言を受け、加美町は2008年4月に新たに政策推進室を設置し、提言の実現に向けて取り組んでいる。

## 2 公共政策ワークショップⅡ

2年次に通年で履修しなければならない「公共政策ワークショップⅡ」は、それぞれの学生が担当の実務家教員・研究者教員と相談しながら独自の政策課題を選択するという形態で行われます。

政策課題は、学生各自が設定することになります。「公共政策ワークショップⅠ」で調査の基本的な技法を習得した学生は、担当の教員や他の学生と十分な討論を行いながら、中央省庁の本省庁や地方自治体、あるいは国際的な機関等に自ら足を運んで担当者と接触し、現場で自ら調査を行うことによって、調査技法および実社会での交渉技術の一層の向上に努めることになります。

調査の結果は、逐次各グループ内で討論に付され、綿密に議論を重ねていくことによって、学生の相互啓発を促すとともに、その中でグループ活動としての要素が加味されることになります。

最終報告は、リサーチペーパーの形でとりまとめられ、担当教員等による書面及び口述の審査を経ることによって、政策立案・説明等の能力の一層の涵養を図ることとしています。特に優秀なペーパー作成者は、全教員・全学生の前でペーパーについて講演を行います。

前期	7月	夏~秋	10~12月	12月	1~2月
●指導教員、プロジェクト機関担当者からのレクチャー ●文献講読による現状把握 ●予備的な現地調査 ●中間報告会へ向けた基本方針の作成	●中間報告会	●実地調査、関係者へのヒヤリング、アンケートの実施 ●調査結果の分析	●政策目的・政策手段の再検討、政策案の実行可能性の検証と精緻化 ●さらなるデータ収集、ヒヤリング、比較事例の現地調査	●学内での最終報告会	●最終報告書の完成 ●プロジェクト機関への報告



ワークショップⅠ最終報告会

# VOICE

教員  
コラム



教授  
**海野 洋**

1950年東京都生まれ、1975年東京大学法学部卒業。農林省(現農林水産省)に入省。長崎県諫早市農林水産部長、内閣情報調査室内閣調査官、水産庁資源管理部長、東北農政局長、(独)農業・食品産業技術総合研究機構副理事長などを経て2007年10月より現職。

### 東北の実態を踏まえて

「食料問題」に対する関心が、このところ急速に高まっています。そこで、私の昨年度担当した「公共政策ワークショップⅠ」では、「農業を軸とする地域振興策」をテーマとしましたが、M1の諸君が「集落営農」に絞り込み、大崎市などで現地調査を行い、それをもとに今後のあり方について熱い議論を交わしました。国民の関心の高い問題について、東北という農業の地で実態を踏まえて政策提言を纏める、まさに本大学院らしさが発揮できたと考えています。

また、今年度前期の授業では、「農林水産政策論Ⅰ」で「食料安全保障を考える中で遺伝子組み換え農作物のあり方」を、また「地域社会と公共政策」では「今後のコメ政策」を取り上げ、タブーなき議論を重ねています。



准教授  
**金 淑賢(キム・スキョン)**

1995年韓国外国語大学卒業。韓国外交通商部外交安保研究院研究員を経て東京大学に留学。2007年同大学にて博士号取得。衆議院議員小沢一郎の秘書を経て、2008年5月より現職。専攻は東アジア政治外交論。

### 世界を自分の舞台に

東アジア政治外交論を担当し、「理論」と「実務」のバランスの取れた研究を目指しています。公共政策大学院では、日韓中を含む東アジアの専門家と世界のグローバルゼーションに対応できる人材を育成したいと考えています。世界で活躍できる人になりませんか。



公共政策大学院 副院長・教授  
**苦瀬 雅仁**

早稲田大学大学院(法学修士)、ニューヨーク大学ワグナー公共政策大学院(Master of Science)。環境庁各局、外務省、UNDP、北九州市環境管理課長、環境事業団副理事長、環境省総合環境政策局計画官、同企画官等を経て平成19年8月より現職。

### 真の問題点を発見し解決していく力を

解決すべき社会問題が複雑化する今日、「真に解決すべき本質の問題が何か、その解決の鍵となる要素は何か」を正確に捉え、合理的で有効な対策を見出し、問題を解決していくことがますます重要になっています。

それは実は難しいことですが、だからこそ今日それを可能とする高い実戦力を持った実務家が求められます。現実的かつ論理的な思考・議論を重ね具体策を提言していくワークショップ等の本大学院の徹底した少人数教育を経てそうした力を持つ人材として飛躍してください。



准教授  
**桑村 裕美子**

鳥取県生まれ。2004年東京大学法学部卒、同助手。2007年4月より現職。専攻は労働法。

### 直感を信じる

理論や実務を学んでいく中で、うまく説明できないけれど、何かおかしいと感じることはないでしょうか。学生の皆さんには、まずはそうした直感を大事にしてほしいと思います。違和感は探究心を生み、批判的分析を可能にするからです。もちろん、よりよいアイデアが浮かんでも、それを受け入れてもらうには十分な説得性を備えていなければなりません。そのためには理論的正当性だけでなく実現可能性が求められます。本公共政策大学院はこのことを学ぶための様々な授業が用意されていますから、貴重な経験ができるのではないかと思います。

# 1. 東北大学公共政策大学院第6期生座談会

▶ **太田&田中** 本日司会をつとめる修士2年の太田と田中です。よろしく。では、まずは志望動機をみなさんに聞きたいと思います。

## 志望動機

- ▶ **今野** 私がこの大学院を志望した理由としては、実際に働く時になって非常に役に立つと思われるワークショップという授業を大学院で行っていたからです。
- ▶ **勝見** 私も今野くんと同じで、政策立案を実際に体験できる授業がある公共政策大学院は東北大学だけだったので。
- ▶ **田中** いいよ、緊張しないで(笑)。じゃあ、志田くんは？
- ▶ **志田** 去年まで公共政策大学院にいらっしやった先生に学部時代お世話になってたので誘われてました。
- ▶ **田中** そうなんだ。じゃあ湯川くんは？
- ▶ **湯川** 僕は学部の頃はずっと抽象的な思想とかやっていたので、それが実社会の社会科学でどう反映されているのかっていうことに興味があって。
- ▶ **田中** なるほど。近藤くんは？
- ▶ **近藤** 長いですよ。
- ▶ **田中** いいよ、熱く語ってください。
- ▶ **近藤** 自衛隊を辞めてから、社会に対する疑問とか戸惑いを感じたまま生活することが結構続いたっていうのが大きくて。特に不登校の子ども達を支援するボランティアをしたり、自分がフリーターっていう不安定な立場になったことが自分に一番大きな影響を与えたと思います。なんかこの国のシステムってうまく機能していない部分があるのかなあって漠然と考えるようになってきて。もともと防衛省の事務官を目指していたんだけど、国防以外の問題にも興味が出てきて。まあでもそれって具体的にどうやって解決したらいいのか。大体なかが問題なのかすらはっきりとわからなくて、こういうのってどこで学ばいいんだろうと調べてみたら、ちょうどこの大学院でワークショップっていうのを見つけて、これだなーって感じて志望しました。
- ▶ **田中** なるほどなるほど。じゃあ安武くん。
- ▶ **安武** 学部時代の恩師の影響が一番大きいんです。その人はNHK出身で、国連とか外務省で働いていた人で、民間の立場としても公的な立場しても、両方で日本社会のために頑張っているすごい方だったんで、その人に憧れていたというのが一番の理由です。それと、あと学部時代にいろいろな理論とか知識を学んでも、実社会でそれを活かしている人がほとんどいないなと思って、この大学院で理論や知識の使い方を学ぼうと思ってきました。

## 大学院生活の“濃さ”

- ▶ **田中** 実際大学院に入って、勉強っていうのはどんな感じで進んでいますか。特に中心はワークショップだと思うんですけど、始めてみてどうですか？
- ▶ **湯川** ワークショップAは西泉先生から与えられたテーマは「過疎地域の集落維持向上策について」なんですけれども、まだ対象が良くわからない。そもそも集落とはなんぞやとかもわからないし。今は集落維持向上策を考えていて、ある策をとると結局どうということが起きるのかというところを考えている、という感じですかね。
- ▶ **安武** 始めはやっぱりわからないよね。徐々に手探りで探している感じで、分かってきたのが昨日。
- ▶ **田中** タイムリーだね(笑)すごいタイムリーでいいじゃないですか。
- ▶ **太田** じゃあ、ワークショップCはどうですか？
- ▶ **今野** Cはまだ、テーマを決めているところです。
- ▶ **太田** 去年の僕たちと一緒だよな。
- ▶ **田中** Cは国際系なんだよね。
- ▶ **今野** ただ、国際系といっても、どうなんでしょう。日本国内で現在起きていることであっても、日本国内だけで解決できることはないの、どのテーマにしたとしても、必ず外国との比較であったり、どのような影響が出るのかということは考えなければいけないと思うんです。今はまだ具体的にテーマはまだ決まってませんが、なんらかの形でグローバルな視点を入れていかなければならないと思っています。
- ▶ **田中** トピックとしてはどの辺りになりそう？ 最初はなんか『日本の論点』読んでたんだけど？
- ▶ **今野** そうですね、『日本の論点』で現在の日本でどのようなことが問題になっているのかということをもまずみんな認識して、その上で議論して、今テーマを決めているところです。
- ▶ **田中** 私たち2人が国際系をやってたからおさらだけど、難しいよね、国際って。
- ▶ **太田** 結構広くなりすぎちゃって事もあつたし、それを逆に狭めすぎちゃうと国際じゃないって批判も出るし。そういった批判を先生方から受けたのが僕たちだったんだけど(笑)
- ▶ **田中** 提言を出すっていうのが非常に難しくなるのは国際かなと思う。
- ▶ **近藤** グローバル化があまり進んでいなかった段階では、日本国内だけでも解決できたことが多かった。だけど、グローバル化が進展する中で、

- 人の流れとか物の流れが活発になってきたから、今までのシステムでは到底追いつけない。ではそのために何を变えようかっていうの1つ焦点を絞ろうということです。それが今のテーマ決めの段階ですね。
- ▶ **今野** あと、日本の経済的地位が落ちていく中で、どのように日本が生きていくのかということ、世界に対抗するために考えなければいけないと思っています。
- ▶ **田中** なるほど。あんまりCにこだわるとどう思うので、ワークショップDはどうですか？
- ▶ **志田** テーマは道路ですね。担当の先生が国土交通省出身の先生なので。一言でいうと道路なんですけど、その中でも、道路管理者っていう道路を日常的に管理している方々がいるんです。それをいままですと行政がやっていたんですけど、それとは違うもつといい方法は何かないのかということを考えています。民間の参加であったり行政側からの働きかけであったり、民間からの要望を反映させたり、というようなことを踏まえながら道路を中心に新しい生活環境を築くにはどうしたらよいか、という議論になると思います。
- ▶ **田中** 実際に事例として扱う場所は決めるの？
- ▶ **志田** 宮城県北の大崎市が協力してくれるということになってます。
- ▶ **田中** 今年は、ワークショップの担当の先生が、すべて実務家の先生だから、そこから学ぶものもあるんじゃないかなと思うんですけど。たぶん今まで皆さんが触れてきたのは研究者の先生たちだと思うから、違うところがあるだろうし。
- ▶ **勝見** すごく話が上手ですよ。
- ▶ **今野** 例えば久武先生は、ほんといろんな知識を持っていて、非常に切れる方ですね。実務家教員の方は、いろいろな情報をもとに、政策を作って提言するわけなので、自然とそういうふうになるかもしれないんですけど。やはり軸となる特定の知識もあるんですけども、他の分野についてもすごい知識を持っているなと感じています。
- ▶ **太田** 研究者教員のいいところと、実務家教員のいいところの両方取れるようになるんじゃないかと思う。そのために実務家教員と研究者教員の1人ずつが各ワークショップに配属されてると思うんで。
- ▶ **安武** Aの場合は驚くほど口を出してこないですよ。本当に学生主体で先生はあくまでアドバイザーに徹してる。
- ▶ **湯川** 徹してるねー。先生が話すのは3コマ中…全部で3分あればいいほう。
- ▶ **田中** 本当？ それはすごいねえ。Dはどのなの？
- ▶ **勝見** 結構先生が話しますかね。
- ▶ **志田** 1コマあたり10分ぐらい話してる。
- ▶ **田中** でも、それでもそんなに短いのか。確かにワークショップって自主性を求められるからこそ難しいと思うんだ。それに8人もいると意見が合わないところも出てくると思うのね、特にこれから先、政策提言とか考えていく時に。でもそれを徹底的に議論することかかるとかいい勉強になると思う。楽しむことですよ、ワークショップを。
- ▶ **太田** その苦しみこそが政策立案の勉強ですからね。
- ▶ **田中** ヒアリングはもう行った？
- ▶ **今野** まだこれからです。
- ▶ **勝見** あいさつ程度のヒアリングにはいきましたけど…。
- ▶ **田中** ヒアリングはじゃあまだ未体験な感じかな。面白いと思うよ。アポを取ることとか、やったこともないことだと思うから。
- ▶ **安武** うち自治体との共同プロジェクトになるんです。ヒアリングだけじゃなくて、住民のワークショップも立ち上がるんです。住民と一緒にやっていくっていうのがやっぱりいい経験になるなあと感じています。
- ▶ **田中** 住民を巻き込むのかあ。すごいなあ。それはちょっと中途半端にはできないね。
- ▶ **太田** ワークショップばかりこだわってましたが、それ以外はどうですか？
- ▶ **安武** ワークショップに限らず、他の授業もそうなんですけど東北大のカリキュラムって、本で勉強できることは自分でしてこいっていう感じじゃないですか。厳しいカリキュラム編成だと自分です。予習の時間が半端なく取られる。さらに息抜きとなると、息抜きのために睡眠時間を削るという感じですかね。
- ▶ **田中** なんか分かる気がする。私もそうだったな。
- ▶ **湯川** 睡眠の中で息抜きすればいいんじゃないですかね。
- ▶ **田中** なるほど、新しい考えだ(笑)本当に安武君のいうとおりで、この授業は行けば分かる、行けばいいっていう授業じゃないと思うんだ。学部との一番の違いはそこかもしれないって私も思うし。
- ▶ **近藤** でも最初のワークショップで、久武先生から『日本の論点』を1週間半分ぐらい読んでこい』と言われて、最初きついなと思ってんですけど、今は全然そんなのきつなくて、むしろ少ないくらいだと思っています。あと、ワークショップや政策体系論の授業で、自分が主張したいことを言うためには、1つの文献を読むだけではだめです。やっぱり自分が主張したいことを言うためには、先生に最初に「これだけ読め」って言われた本の数の3倍から4倍ぐらいの数の本を読まなければいけません。だから、



**太田 晶久**  
(M2 学生)  
愛知県出身  
明治大学政治経済学部  
政治学科卒

「世のため人のために何かしたい。でも、何をすればいいかわからない」と悩んでいる貴方ぜひ、東北大学公共政策大学院で学んでください。貴方の悩みを解決するためのヒントを得られるかもしれませんよ。



**田中 千絵**  
(M2 学生)  
仙台市出身  
東北大学法学部卒

現状に不満を言うのは簡単です。この大学院で勉強すると、その不満の原因を分析し、それを解決することができる人になります。挑戦者求む!!



**今野 巧也**  
秋田県出身  
北海道大学法学部卒

この大学院は公務員に必要な知見を広めることができる場所です。また、本人の頑張りで次第で人間的に成長できる場所でもあります。



**勝見 文子**  
山形県出身  
立命館大学文学部卒

この大学院には、成長したいと思う人には多くのチャンスが用意されています。そのチャンスを利用して経験したことは、政策立案の能力を身につけることはもちろん、人間的な成長にもつながります。



**志田 隆一**  
東京都出身  
東北大学法学部卒

いい意味で時間に追われないから、思うがままに同学年と議論が出来る。自由に公務員試験の勉強が出来る時間も作ることが出来るので、その点いいと思います。



**湯川 致光**  
東京都出身  
東京学芸大学教育学部卒

この公共政策大学院では、今までつらいと思っていたことが気持ちよくなります。人生の大半を気持ちよくしたい人は共に学びましょう!



**近藤 裕史**  
神奈川県出身  
防衛大学校理工学専攻  
航空宇宙工学科卒

この大学院では、社会の真の問題点は何か解決に必要な能力は何かというところから問題解決能力を涵養できます。社会の問題と対峙する熟意のある方、ともに成長しましょう。



**安武 弘太**  
福岡県出身  
福岡大学法学部  
政治学科卒

ここでの友とは管轄の変わりです。期間はたったの2年間。それは本気になれる2年間。本気の友を見れる2年間。君も僕らとともに志に磨きをかけましょう。

- 今は先生に「これだけ読んでこい」といわれても、もう全然苦痛ではありません。だって、どの文献を読まなきゃいけないかを調べるほうが難しいのに、それを先生のほうで提示してもらえば楽だなあと思います。逆に。
- ▶ **田中** 手探りでものを探してという経験をする、確かにそれはそう考えるかもしれないね。みんな、授業はどれくらい受けてる？
- ▶ **志田** 実は僕、授業1つしか取ってないんですよ。
- ▶ **湯川** マジで？
- ▶ **田中** 自由が利くのもうちの大学院らしいところだと思うよね。
- ▶ **太田** 公務員試験を受ける人は授業数を抑えたりできるから。
- ▶ **田中** 調節が利くよね。私たちみたいに民間企業に就職を希望する人は、2年の前期に授業取らない人とかもいるしね。
- ▶ **太田** 僕も全然取ってないから。進路の話が出たから、そっちに話を進めますか。
- ▶ **田中** 民間志望の人はどれくらいいるんですか。(挙手)2人か。
- ▶ **太田** ちなみに業界はどういうところを志望しているんですか？
- ▶ **安武** うーん、コンサルとか。
- ▶ **田中** なるほど。湯川くんは？
- ▶ **湯川** 僕はアパレルですね。(一同笑)
- ▶ **志田** どおりでファッションセンスがいいわけですよ。
- ▶ **田中** いつもジャージを着てね(笑)
- ▶ **安武** ジャージを着てアパレルに行くこと。
- ▶ **湯川** 冗談はさておき、僕もコンサルタントになりたいなって思ってます。
- ▶ **田中** なるほど。後は皆さん公務員？
- ▶ **今野** あと、私は教員採用試験も受けます。多分、公共政策大学院に来る人で教師志望は珍しいと思うので。
- ▶ **田中** そうだね、すごく珍しいんじゃないかな。今までいないよね、多分卒業生でも。
- ▶ **今野** 私がらうとしてる教師の分野が公民なので、勉強になるかと思ったんです。
- ▶ **田中** それぞれ自分の進路を決めた理由は何か？大学院での勉強と将来の進路は、どうつながると考えてるかな？
- ▶ **安武** 公共的な役割を果たす主体が、最近「公」に限られないんで、民間の立場から関わってみるのは面白いかなあと思っています。逆に、民間でしか出来ない公共的な役割みたいなものもあるんじゃないかなあと思って、民間のコンサルを目指してます。
- ▶ **今野** やっぱり、役割分担っていうのが必要じゃないんですか。もともと、「私」の分野である方々が全部できればいいんですけど、そこでどうにもならない問題を国であったり、地方公共団体であったりやるということだと思うんです。もし公の部分民間がやることによって効率が良いからであれば、やっていくべきだと考えています。
- ▶ **志田** 今までの話とは全然違うんですけど、僕は仕事の内容だけで選んでいるわけではなくて、働いている人も見て選びたいと思ってるんです。
- ▶ **田中** あー、なるほどねー。
- ▶ **志田** 実際に働いている社会人の人から話を聞いたりしていて、やっぱり嬉々として自分の仕事内容を話している様な人を見ると、こういう人と働けたらいいなって思ってます。やっぱり国1の人は、みんな自分の仕事を嬉しそうに語るんですよ。どこの省庁かによって差はあるんですけど、やっぱりこういう人たちの中で働きたいなと思ったのがきっかけですかね。
- ▶ **田中** 入って大事だね。それは分かるかな。
- ▶ **安武** 先輩方はどうなんですか？
- ▶ **太田** 僕は新聞社に入社することが決まっていた、来年から新聞記者として働きます。もともと僕はこの大学院に入社する前からジャーナリスト志望だったんですけど、この大学院に入りたかった理由は、社会に触れられると思ったからなんです。皆さんの志望理由の中で、政策立案を体験したいという話があったけど、実

- 際に政策立案や政策提言などを通して、社会に触れられる大学院ってなかなか無いのかなと思っています。
- 実際、僕たちの学年の人数が少なかった関係もあって、ヒアリング調査で行政だったり、民間団体だったり、市民の方々に話を聞きに行く機会が多かったです。そのヒアリングを通してすごく感じたのが、1つの地域の中でそれぞれのアクターが別々の方向を向いているってことです。アクターとアクターを結びつける働きが出来るのって何かなくて考えたときに、僕はそれが出来るのはメディアじゃないか、双方向の話を聞いてそれを伝えるジャーナリストになりたいと思った。
- ▶ **勝見** じゃあ田中さんはどうですか？
- ▶ **田中** 私は、ずっと地方で暮らしてきて、国の政策とかを意識したことがあまり無かったのね。でも、公共で勉強しているうちに、住民が自治体とか国の政策に目を向けることが大切なんじゃないかと思ってきて。さっき太田君が人を結びつけることが出来るのがメディアだって話してたと思うんだけど、私はコンサルやシンクタンクも似たような役割だと考えてます。というわけで、来春からシンクタンクで働きます。インターンで行った会社さんだけけど、その人がすごく良くて、ここならまだまだ成長できそうだって思ったことも決め手だったかな。
- ▶ **太田** やっぱ入って大事だね。
- ▶ **田中** 人は大事だね。大学院で勉強していると思うけど、周りの人って凄く大事だね。
- ▶ **太田** ワークショップの活動もそうだけど、やっぱり1人じゃなかなか出来ない事が多くて、だから社会に出る前にワークショップのような集団作業を経験することは、社会に出た後も役に立つと思うよね。
- ▶ **田中** うん。M2になると個人作業が中心になるからね、M1の時の仲間達が非常にありがたくなってくるよ。多分。
- ▶ **太田** 凄く寂しくなるんだよね。(一同笑)
- ▶ **田中** ワークショップ室は24時間いられるので、夜中まで同級生と一緒に議論することが出来たのがよかったね。去年は、寝袋を持ち込んでる人もいたんですけど、授業だけじゃなくて私生活の部分もほとんど同級生と一緒に過ごしている感じだったね。今リサーチペーパーに取り組んでるから、1人で作業しているから、もつと他の人の意見を聞きたいなあと思うことが多いんだよね。M1の皆さんも、だんだんと仲間の大切さを実感していくと思うよ。
- ▶ **安武** 今僕は大学の寮に住んでいて、周りに他の研究科の大学院生がいるから分かるんですけど、公共政策大学院にいるとコミュニケーション能力とかが高まると思うのですが、就職活動とかで公共政策大学院での経験が役に立ったことはありますか？
- ▶ **太田** 記者っていう仕事柄、特に新聞社などは、ヒアリング調査で色々な人たちのところに向いて、取材の真実事じゃないけど、インタビューをした経験は凄く大きく評価されたね。あと、授業中とかもそうだけど、発言とか質問する力って付くじゃないですか。ここは、そういう力も評価されるのかなあと思うよね。それに、ワークショップを経験することで、集団討論を就職試験でする際に、大体こういうところで議論を立ち着ければいいなあということが分かるようになり、うまく議論をまとめることが出来たと思います。
- ▶ **安武** じゃあ、ある意味民間に就職したい人にとっても良い大学院なんですかね。
- ▶ **田中** そうだね。私はそれを凄く感じた所があって。インターン中にね、私が特に評価された所でタイムマネジメント能力だったんですよ。この能力は絶対ワークショップのお陰で養われたと思うんだ。先を見た計画をたてて、今何をやるべきかという事をきちんと考えて進める。これができる人が少ないっていう話をされたんだ。
- ▶ **太田** あと、文章を書く力も付くね。最終報告書とかもそうだし、授業やワークショップの発表で文章を何枚も書くので。是非ジャーナリスト志望の人に来て下さい。(一同笑)
- ▶ **近藤** 公務員志望者に対しても、僕とか今野君は官庁訪問のための指導を実務家

の先生方から受けていて、すごくバックアップしてもらってます。あと、ワークショップの実務家教員の先生が進路のアドバイザー教員としてついでに、面談で、例えば、「この省庁志望だったら、こういう能力を今のうちに養っておきなさい」というアドバイスももらってます。やっぱり、公務員志望にとってもこの大学院は適していると改めて感じています。

- ▶ **勝見** 現役の官僚と直に話せる機会ですからね。
- ▶ **志田** それが出来るのが公共政策大学院ならではのよさだね。
- ▶ **田中** 特にうちの大学院のすごい所って実務家の先生が2年間きっちりここにいる事だと思うんですよ。先生達も2年間ここで一生懸命向き合ってくれてくれるというのがすごく大きいと思う。話す機会も沢山あるし、それぞれお酒を飲み交わす機会もあるだろうし、そういう中でいろんな話が聞いていけるっていうのがこの魅力かなと私は感じてるな。
- ▶ **太田** 普通に「一緒に飲みに行こう」といって、学生と現役官僚が同じテーブルを囲んでお酒を飲む機会なんてないからね(笑)
- ▶ **志田** 学生もアクティブだけど先生にもアクティブな人が多い気がする。
- ▶ **太田** 熱い先生が多いよねー。
- ▶ **田中** 自治体にヒアリングに行って「●●先生っているよね?」って言われる事がよくあるんだ。先生方も、自分の足で調査して回っているんだなーと思うと、すごいなーと感じますね。
- ▶ **太田** 僕は研究者の先生に、論文の正しい書き方や参考文献の書き方などの学術的なことをきっちり指導してもらったね。やっぱり実務だけではなく、学術的なことも学べる。理論と実践だよな。
- ▶ **田中** 本当にそうだと思う。理論と実践のバランスがいいのはやっぱり魅力的だよな、ここは。
- ▶ **勝見** 魅力的な所ですね。
- ▶ **田中** 他に公共の魅力って何ですか?特に東北大学の公共政策大学院の魅力とか、あとは仙台の魅力とかって何でしょう?
- ▶ **志田** 地理的には恵まれてるんじゃない? 東京近いし、地方っていう強みはあるし、綺麗だし。
- ▶ **田中** そうだね。地方だからできる事っていうのもあるよね。
- ▶ **湯川** 僕は東京の大学で勉強していたんですよ。東京のいい所は、刺激がたくさんあることです。逆にいろいろ刺激がありすぎて、じっくり物事を考える時間が取れませんでした。でも仙台に来て、東京に比べたらあんまり刺激は無いかもしれないけれども、物事をじっくり考える時間と雰囲気がありますよね。物事をじっくり考えることができる雰囲気がある。

## 2. 成長実感 ~ 学生の声

### ● 阿部 慎平 2005年度卒業 (現在、防衛省防衛政策局日米防衛協力課勤務)

著名な政治学者のD・イーストンによれば、政治とは「社会に対して行われる諸価値の権威的配分」と定義される。政策決定の現場で働く、この「配分」がいかに困難かがよく分かる。人間が作り上げたシステムはそれほど単純なものではなく、人々の意思は多種多様で、その集合体である国家としての意思決定は簡単にはいかないものである。

他方、そのような様々な困難を抱えつつも、今ほど「GOJ (Government of Japan)」を意識して仕事をすることは無い。わずかに入省4年目ではあるが、これまで以上にイラクにおける航空自衛隊の輸送活動、インド洋における海上自衛隊の補給活動を定めた補給支援特措法、沖縄からグアムへの海兵隊の移転事業等と歴史的転換点に身を置いてきた。最近は大きな仕事を任せられることも多くなり、自分の仕事GOJの意思決定に影響を与えたと考えれば、これほどやりがいのある仕事もない。

先日異動された5年近く上の先輩に「君はもう係長卒業だ。もう部長(他省

### ● 加藤 翔一 2008年度卒業 (現在、内閣府政策統括官付参事官付)

私は公共政策大学院では、主に政策体系論、公共政策ワークショップを中心に受講しました。

政策体系論では、大抵の場合、実務家の担当教員から次週までに回答すべき課題が出されます。この課題に対し、各人が学部で学んだ法学や経済学、行政学などの知識をフル活用して、回答を用意し講義に望むわけですが、政策で達成したい真の目標は何かという点、その政策の公益性・公平性という点、政策が法的に許容されるものであるのかという政策立案の基礎となるべき点について厳しくチェックされました。この講義を通し、政策立案を行う際に考えるべき事が具体的に把握できるようになり、政策立案の「型」を学ぶことができました。この「型」を学んだことは、公共政策ワークショップにおいても、ヒアリングで聞くべき項目や具体的な制度設計を行う際に留意すべき点がある程度明確になったという点で大変有益でした。

公共政策ワークショップは、グループで一年間の進捗を自分たちで立てつつ、講義で鍛えられた基礎的な能力を活かしながら実際に政策立案を行うカリキュラムです。このカリキュラムの中では、政策立案に必要な「サブ」に関する能力のみならず、どのようなスケジュールで仕事をすべきか、という実務上極めて重要な「ロジ」の能力を身につけることができます。「サブ」の能力とい

のは、やっぱり仙台の大学だからこそだなと思いますね。

- ▶ **志田** 学都・仙台ですね?
- ▶ **太田** 今野君は大学時代に札幌に住んでたって事なんだけど、札幌と仙台を比較してどうですか?
- ▶ **今野** 地理的に東京とかと繋がっているっていうのがありますよね。やっぱり北海道という独特な生活体というか、そのような感じがあるので。
- ▶ **太田** 勝見さんは大学時代京都にいたという事なんですけれども、仙台は京都と比べてどうですか?
- ▶ **勝見** 仙台は京都と比べると少し閉鎖的かなと思います。外とのつながりも京都と比べると少し少ないかな。でも逆に、少し閉鎖的なのところが、学生の勉強する環境としてはいいんじゃないかなと思います。
- ▶ **田中** これからヒアリングとかして人に触れると、違う魅力が出てくるかもしれないね。…この後も座談会は続きましたが、紙幅も尽きたようなので、あとは皆さんへの一言メッセージを!

### 志望者へのメッセージ

- ▶ **志田** いい意味で時間に追われないから、思うがままに同学年と議論が出来る。自由に公務員試験の勉強が出来るとも作ることが出来るので、その点いいと思います。
- ▶ **湯川** 法学や経済学を学んでないときついんじゃないかなと思ってる人がいるかもしれないけども、僕は思想とか、哲学とかやってきて、それでも全然いけます!一緒にキルケゴールを読もう!
- ▶ **近藤** ここには色々な人がいて、ワークショップで皆と一緒に考えているうちに、自分のいい所とか足りない所とかがわかってきます。
- ▶ **今野** 非常に勉強に打ち込める反面、時間が制約されるので、生半可な気持ちだとやっていけないと思います。…はい。覚悟がある人は来てください。
- ▶ **勝見** 成長したい人と思う人にはチャンスが沢山あるかなと思いますので、是非来てください。女の子は少ないんですけど、少ないからこそすぐ顔を覚えてもらえるし…。
- ▶ **安武** 自分の意見をしっかり持っている人、且つそれをぶっ壊して、再構築する勇気のある人に来て欲しいです。

## 3. 卒業生からのメッセージ



### 公共性の追求

牧田 聡二 千葉県出身、東北大学法学部卒。平成21年度、国土交通省入省。

公共政策とは一体何か。公共性の追求は自らの利益には直接的にはつながらない。だからこそ、公共政策は難しい。何を目的とした政策なのか、そこに係わる主体はいかなるもので、それぞれの主体が受ける利益や負担はどのようなものなのか。公共政策大学院で学んだ視点は数多い。超巨大行政機関の中の一員となった今、大学院で学んだことや多種多様な目的を持った仲間達と過ごした緑多き仙台の街に想いを馳せつつ、満員電車で揺られながら日々奮闘中…



### 今の社会、どげんかせんといかん!

米良 圭祐 宮城県出身、大阪市立大学法学部卒。現在、宮崎県都城土木事務所用地課勤務。

私は現在、県の出先機関である土木事務所道路管理を担当しています。道路行政の最前線で日々現実と法制度のバランスという問題に直面するなかで、公共政策大学院で学んだ2年間は決して無駄ではなかったとの思いを強くしているところです。東北大学公共政策大学院は「公共政策」の「現場」を重視しています。「どげんかせんといかん」は決して宮崎県だけではないはずで、社会に対して少しでも疑問を持つ方は是非公共政策大学院に学ばれることをおすすめします。



### 理論と現実

菅野 玄徳 福島県出身、東北大学法学部卒。平成19年度、国土交通省入省。

「先生、僕、河川行政について論文を書いてみたいんです」「君ごときに河川は扱いきれませよ、ほおっほっ」と一蹴されたのは、約一年半前。あれから一年半、何の因果か、現在は国土交通省の河川局に在籍しています。大学院等で学んだ理論と、実際の現実との齟齬。新聞の論調と、当事者の本音とのギャップ。その制度や改革は一体どうして必要で、誰の利益になるのか。実際に働いたのは一ヶ月半程度で、今の自分にどうにかできるわけではありませんが、河川行政の最前線に立ち、常々そんなことを感じさせられながら、たまに二日酔いで怒られながらも、雑多な業務に立ち向かっています。



### 「千本ノック」を浴びて

大泉 玄之助 宮城県出身、東北大学法学部卒。平成18年度、公正取引委員会事務局入局。現在、内閣官房行政改革推進本部事務局勤務。

本大学院で得たものは、「打たれ強さ」と「疑う姿勢」であったと思います。教員から浴びせられる問題提起は、千本ノックのようでしたし、友人との討論は、ノーガード戦でした。大学院での2年間は、ひたすら自分を苛め抜く日々でした。この中で培った2つのことは、「考え抜く姿勢」へと変化して、現在、仕事の中で役立っていると思っています。皆さんも、未来への投資の一環として、本大学院の扉を叩いてみては如何でしょうか?

# VOICe

教員  
コラム



### 准教授 西泉 彰雄

1993年慶應義塾大学法学部卒業後、旧自治省(現総務省)に入省。長野県観光課長、市町村課長、総務省地域情報政策室長補佐、さいたま市政策局総合政策監・情報統括監、自治大学校教授などを経て2008年8月から現職。

### 『「現場の分かる」政策プロフェッショナル』へ

「課題は現場にある」。これは私も実務経験を通じて痛感していることですが、一方、現場主義を実践することは「言うは易く行うは難し」です。「公共政策ワークショップ」では、この現場主義を実践すべく様々な現場に飛び込むこととなりますが、容易には真の課題に辿り着けず、戸惑いと試行錯誤の連続になるでしょう。しかし、その経験は得難い財産になるとともに、その過程で多くのことを学び、「現場の分かる」政策プロフェッショナルへと成長していく重要なフンステップとなることを確信しています。



### 教授 坪野 吉孝

1989年東北大学医学部卒、1993年同大学院修了。国立がんセンター研究所、ハーバード大学公衆衛生大学院、東北大学医学部助教授を経て、2004年4月より現職。

### 試行錯誤を貢献に

本大学院に来られたら、今日の社会の具体的な問題に向き合い、その解決のための試行錯誤に取り組んでみてください。学問は縦割りですが、問題は縦割りでは解決できません。新しい知識やスキルを身に付け、仲間や教員と議論し、現場に足を運んでください。その成果を「ささやかな貢献」として形にすることが、かけがえのない経験になるでしょう。



### 准教授 飯島 淳子

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法政学政治学研究所博士課程修了。2003年9月より現職。専攻は行政法。

### 緊張意識とバランス感覚

国家・社会の「構造的変化」の只中にある今日、時に矛盾し衝突し合う理念・制度・実態を正視し、従来の学問上・実務上の蓄積をしかるべき限度において尊重しながら、緊張意識とバランス感覚を何とか失うことなく、理論的かつ実践的に試行錯誤すること。公共政策大学院での勉強は、不変的であり最先端でもある、このような困難な課題について、深く考えさせるものではないかと思っています。



### 准教授 小玉 典彦

1975年新潟県生まれ。1999年一橋大学法学部卒業後、建設省(現国土交通省)に入省。建設省建設経済局、国土交通省土地・水資源局、住宅局、大臣官房、関東地方整備局道路部路政課長、同総務部人事課長を経て、2009年4月より現職。

### 地に足の着いた政策提言を目指して

本大学院の特長的な授業のひとつに「公共政策ワークショップ1」がありますが、ここでは、現場の実態を踏まえた、地に足の着いた政策提言をまとめるという、机上の議論だけでは決してできない貴重な経験をすることができます。私の担当するワークショップでも、「地域の手による新たな道路管理のあり方」というテーマについて、学生たちが、道路管理の現場に入り込みながら、地に足の着いた政策提言をまとめて上げるべく日々奮闘しているところです。私も実務家教員として、今までの役人生活を通過して得たものを、なるべく多く学生たちに伝えていきたいと思っています。

# 1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、そのカリキュラムによって自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

公務及び公共政策の立案・制度設計に不可欠の法学・政治学への理解を、基礎レベルで有すること。

討論・交渉・文章作成などコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業への適性を有すること。

公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、入学後科目履修に必要な法学・政治学への基礎的な理解を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、法学部卒業生のみにも有利にならない試験を実施し、社会人・他学部学生が受験しやすいように配慮します。

# 2 概要

入学試験は9月の土曜日および日曜日に行われます。また、合格発表は、入学試験の1～2週間後に行います。入試会場は、東北大学片平キャンパス(仙台市青葉区片平)となります。

入学試験は、提出書類、小論文および口述試験の総合判定により行います。小論文は土曜日の9時～10時30分に行い、口述試験は土曜日または日曜日に行います。

# 3 小論文

小論文は、土曜日9時～10時30分に行います。  
小論文の問題は、内政関係の政策課題、経済に関連する政策課題、および国際関係の政策課題の3分野から出題します。受験者は、その中から一つを受験時に選択して、小論文を作成します。ここでは、受験者の具体的な政策課題への対処法として作成された文章から、受験者の法学・政治学についての基礎的な理解を考査し、かつ現代社会が抱える政策課題についての基礎的な知見を審査することが目的となっています。  
小論文では、例えば次のような問題が出題されます。

## 内政関係の政策課題

我が国では、これまで特別措置法などで過疎対策を進めてきたが、依然、過疎化の進行に歯止めがかからない。過疎の現状及び問題点について思うところを述べた上で、過疎問題について、今後どのような考え方で、どのような対策を講じていくべきか論じなさい。その際、立法措置に言及できる場合は、立法措置にも触れつつ、今後の過疎対策を論じなさい。

## 経済に関連する政策課題

経済政策に関しては、近時、いわゆる構造改革が進められてきているが、最近ではその見直しを求める動きも強まっていると言われている。構造改革の定義、市場メカニズム活用の意義とそれに際しての課題等に関して適宜言及しつつ、構造改革路線について、自分の考えるところを述べなさい。

## 国際関係の政策課題

現在、国際社会が直面する問題の中で最も重要と考えるものを一つ選び、なぜその問題を最も重要と考えるかを述べた上で、その問題を解決するためには誰が何をなすべきか、自分の思うところを論じなさい。

# 4 口述試験

口述試験は、土曜日または日曜日に行います。日時はあらかじめ受験者に通知します。受験者が多数となった場合、一部受験者については、その了解を得た上で、上記の試験日に加えて、これと近接した日程で試験を実施することがあります。

口述試験は、これまでのとおり、複数の面接実施委員により、受験者1人ずつ、約60分かけて実施します。口述試験は、受験者の法学・政治学の専門知識を問うものではなく、コミュニケーション能力や集団作業能力等を総合的に判定するために行われます。

# 5 本年度の入試日程、場所、出願方法について

東北大学公共政策大学院ホームページに掲載されております。→ <http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>

**出願受付** 2009年 **8/31**(月)～**9/4**(金)  
東北大学大学院法学研究科専門職大学院係にて郵送により受付。  
9月5日消印有効。

**入学試験** 2009年 **9/26**(土)～**9/27**(日)  
仙台(東北大学公共政策大学院)で実施。

**合格者発表** 2009年 **10/2**(金)  
東北大学公共政策大学院ホームページ上に掲示。  
(<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>)受験者には別途通知



入学オリエンテーション



オリエンテーション合宿

募集要項及び出願書類の用紙は、7月中旬以降に法学研究科の窓口で配布します。また、郵便で取り寄せることもできます。郵便での募集要項及び出願書類の取り寄せ申し込みについては、2009年7月13日以降以下の方法にて受け付けます。

- 1) 申し込み方法… 返送先の住所・郵便番号、氏名を記入し240円分の切手を貼った角型2号の返信封筒を同封し、表書きに「公共政策大学院募集要項請求」(朱書き)と明記し、下記宛郵送してください。
- 2) 申し込み先…… 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学公共政策大学院専門職大学院係

## VOICEMAIL 教員コラム



教授  
**久武 昌人**

1982年東京大学卒。同年、通商産業省入省。知的財産権立法、通商摩擦、産業人材育成、国際金融問題、国際資源外交等に携わる。この十年では、京都大学経済研究所助教授、通商政策情報調査課長、経済産業研究所上席研究員(兼)東京大学公共政策大学院非常勤講師、産業政策局経済解析室長等を務める。2008年夏から現職。

### 自由な発想

私の研究室の窓からは、植物園とそれに連なる山々の緑が鮮やかに見えています。「杜の都」を実感するときですが、その向こうにはとてもモダンなテレビ塔があり、シユールな風景でもあります。ふと、これをモチーフにどんな絵を描くことができるのだろうか、と考えてしまいます。マグリットなら? ダリなら? あるいは、風景画はほとんどないようですがフェルメールなら?  
今、なぜ他の画家の名前が出てこなかったのでしょうか。それは私自身の持つ一種のバイアスによるのかもしれませんが。  
ここ仙台での私の「モチーフ」、それは、「公共政策大学院は広義の政策形成過程の一構成要素であり、その態様は、国会、行政、シンクタンク等のそれと共に、一種のナッシュ均衡をなしていると考えられるのではないかと。そうであるとして、自分が関与できるこの空間で何をなすべきかを考えること。」だと言って良いと思います。  
予断を持って見ず、深く考える。容易なことではありません。どうすればよいのでしょうか。学生のみならずと共によく考えて行きたいと思っています。



教授  
**生田 長人**

京都大学法学部、建設省入省、京都府企画調整局長、鹿児島県警察本部長、環境庁官房総務課長、内閣府神奈川復興本部次長、国土庁土地局長、防災局長、2000年退官後、同年10月東北大学大学院法学研究科教授。2005年4月～2006年3月まで公共政策大学院長(初代)。専攻は都市法。

### 私たちの責務

かつて地域社会などが果たしていた「公」的機能を肩代わりする形で肥大化を続けてきた行政分野は、現在、厳しい財政事情を背景に、その縮小見直しが進められています。今後人口の減少や高齢化が進む中でそれ自体は無理からぬところであると思うものの、その見直しに当たってしばしば耳にする「民でできることは民に」というキャッチフレーズには、些か首をひねりたくります。  
特に最近私たちの社会を揺るがしている安全・安心の分野に関しては、「民にできることであっても、民がするにはふさわしくないものがある」ことを改めて痛感せざるを得ないような不幸な事態が続いています。  
採算性や効率性が最重要視される民の手に任せていたのでは不幸に見舞われるおそれのある多くの人達に対して、縮小せざるを得ない行政資源でどのように対応するかは、今、私たちの社会に突きつけられている一つの重要な課題だと思えます。  
何を「公」が行うべきこととして残し、何を「共(地域社会等)」の手に戻し、何を「民」に任せるのか。  
私たちの公共政策大学院の使命は、人を大切に、次の時代にふさわしい「公」「共」「民」のあり方を考えることのできる人を育てることであると私は思っています。



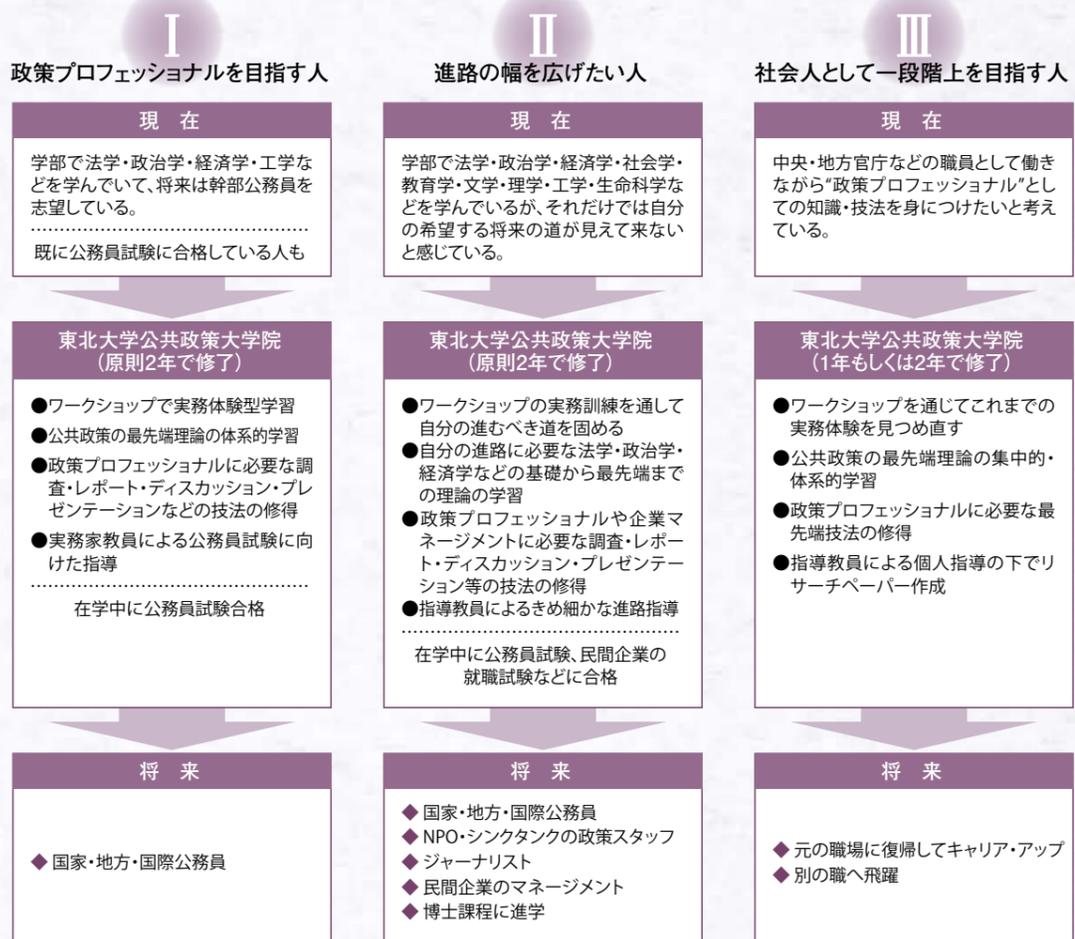
東北大学理事・教授  
**植木 俊哉**

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。2004年から2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、2006年から現職。専門分野は、国際法・国際組織法。

### 充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容をその特長としています。とりわけ、行政の中核での豊富な実務経験を有する優れた実務家教員と最先端の研究に従事している研究者教員とがベアを組み、少人数の学生グループによる特定の行政テーマに関する自主的な調査研究と政策立案を指導する「公共政策ワークショップ」は、本学の公共政策大学院の大変優れた特色ある教育システムを構成しています。この「公共政策ワークショップ」を通じて、皆さんは、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしております。

東北大学公共政策大学院はどんな人たちが学ぶのにふさわしいところなのでしょう。また、そのような人たちが東北大学公共政策大学院に学ぶことによって、どのような将来の道が拓かれるのでしょうか。



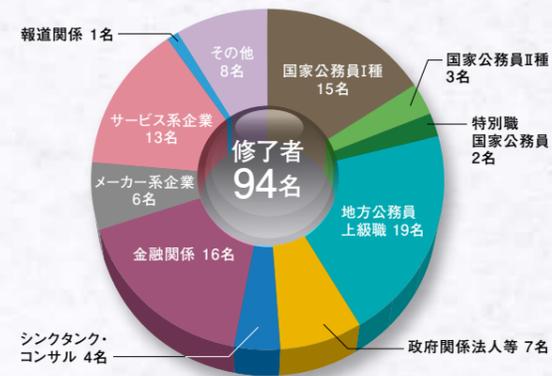
卒業生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

大学の医学部や法科大学院と違い、修了証書と資格試験の受験要件がリンクした大学院ではありません。しかし、国家公務員試験の制度改革においては、単なる知識にとどまらず応用能力を重視する方向性が強められており、本学のカリキュラムはそれを先取りしたものと自負しています。

また、ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、およその官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

なお、国家公務員・地方公務員になる場合、各種の公務員試験に合格する必要があります。これらの試験への対策については、個人々の学習によるところですが、公共政策大学院としても、数度にわたる個別相談や環境整備等を通じて支援しています。

修了生(第1期～第4期生)94名の進路



- ◆ 国家公務員I種.....内閣府、総務省、厚生労働省、農林水産省、国税庁、国土交通省、環境省、防衛省、公正取引委員会
- ◆ 国家公務員II種.....公安調査庁、金融庁、独立行政法人国立病院機構
- ◆ 特別職国家公務員.....陸上自衛隊幹部候補生
- ◆ 地方公務員上級職.....宮城県庁、茨城県庁、富山県庁、大阪府警察、秋田市役所、前橋市役所等
- ◆ 政府関係法人等.....日本銀行、日本郵政公社、JETRO、中小企業金融公庫、農林中央金庫、JIBC等
- ◆ シンクタンク・コンサル.....富士通総研、日本能率協会コンサルティング、ランドブレイン
- ◆ 金融関係.....日本生命、三菱東京UFJ銀行、千葉銀行、明治安田生命保険相互会社、損害保険ジャパン等
- ◆ メーカー系企業.....JFEスチール、三井化学、日本ヒューレット・パカード、スズキ等
- ◆ サービス系企業.....日本IBM、JR西日本、アクセンチュア・テクノロジーズ・ソリューションズ、東京建物、NTTデータ、ベネッセコーポレーション等
- ◆ 報道関係.....日本経済新聞

公共政策大学院へようこそ



東北大学大学院公共政策大学院長 教授 牧原 出

牧原 出

1967年愛知県生まれ。東京大学法学部助手、東北大学助教授を経て、2006年4月より東北大学教授、2009年4月より公共政策大学院長。専攻は行政学。主著は「内閣政治と「大蔵省支配」(サントリー学芸賞)。

2004年に東北大学公共政策大学院が発足して5年が経ちました。毎年多くの学生が、面接試験で複数の試験委員から矢継ぎ早に繰り出される質問に60分間食らいつき、公共政策ワークショップI・IIで徹底的に政策的思考をたたきこまれ、卒業後は国家公務員、地方公務員をはじめ、金融、情報通信、シンクタンク、マスコミと多くの分野へ巣立っています。最近では、留学のために推薦状を依頼されたり、はたまた留学先で就職し現地の人と結婚したという便りをいただいたりもします。

この5年間は、教員にとっては、日本では初めての試みであった政策の調査・提言を集団作業で行う「公共政策ワークショップ」をどうやって成功させるか、試行錯誤の連続でした。宮城県・仙台市を主たるフィールドとした内政・経済面でのワークショップや、ニューヨーク、ソウル、北京へと調査に学生が出かけた国際ワークショップなど、毎年教員は知恵を絞ってテーマを設定しています。学生たちもこれに応え、グループによっては総計50以上のインタビューをこなし、アンケート調査を行い、その結果について徹底的に討論し、報告会前は深夜までワーク

ショップ室で作業を続け、報告会では厳しい批判に耐え、ときに堂々と、ときに批判に負けそうになりつつも気を取り直して反論に努めています。春の花見、秋の芋煮会、女子学生の会など、年次を超えた学生主体のイベントもいろいろ企画されているようです。少人数の大学院ならではのスクールカラーが出てきました。

ここまで手作りで大学院の基礎が固められてきました。このプロセスに参加した学生たちは、大学院の中で大きく飛躍して、社会の第一線で日々活躍しています。大学院もまた、これまでの経験をもとに、今後一層さらに多方向へと発展していきます。外部講師を招いたホット・イシューについての講演会の開催や、国際系の授業の充実、政策研究方法論の講義など、すでにいろいろな試みが行われています。リーマン・ショック以後の金融危機と経済危機、戦後政治の行き詰まりと統治機構改革の進行という国内外の転換期に立つ今、私たちと一緒に、この新しい大学院で自分を大きく成長させてみませんか。そんな意欲のある皆さんと4月に片平キャンパスでお会いする日を楽しみにしています。



東北大学大学院法学研究科長 教授 芹澤 英明

芹澤 英明

1959年神奈川県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究所博士課程単位取得退学、エッセクス大学法学部大学院修了。東北大学法学部助教授・教授を経て2009年4月より現職。専攻は英米法、トランスナショナル情報法。

東北大学公共政策大学院は、仙台市の中心部に位置する東北大学発祥の地、片平キャンパスにあります。東北大学は日本で3番目に設立された国立大学であり、2007年に創立100周年を迎えました。片平キャンパスはその伝統を今に伝える落ち着いた雰囲気があります。本大学院は、我が国初の本格的な公共政策大学院の一つとして2004年に設立されました。教員スタッフは、中央省庁から派遣された高い専門性と教育の熱意を持つ行政実務家と、最先端の政策科学を探究しその成果を教育に活かす研究者から構成されていて、非常に充実しています。「公共政策の展望と方法論」と「公共政策ワークショップI・II」を中核とする懇切丁寧な学生指導により、「政策のプロ(エキスパート)」として、実務と理論の両方で修了生を、中央省庁を始めとする「政策の現場」に毎年送り出してきました。

現在、経済社会の複雑化とグローバル化の一層の進展により、政策科学の分野では、従来型のハードな規制からガイドラインを典型とする

未来の政策のプロを目指して

ソフトな誘導型的手法への転換が模索されています。本大学院において、未来の政策のプロを目指す意欲のある人が、新しい政策分野に挑戦しながら、目標の実現に向かって前進していけることを願ってやみません。

東北大学正門

